

学校名	豊島区立西巣鴨小学校
校長名	野村 友彦

学校の教育目標
元気 なかよし かしこい 西巣っ子
学力に関する目指す児童像
自らすすんで考え、互いに学び合う、確かな学力がある子ども

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
言葉を正確に理解し、適切に用いて自分の考えや思いを表現できる能力の育成		
学年	実態	具体的な取組
低	語彙が少なく、知っている言葉でも、言葉のもつ意味や正しい使い方について理解が乏しいため、自分の考えをうまく表現することが難しい。	・音読、読書活動や読み聞かせを通して語彙を増やし、言葉の使い方を習得させる。 ・自分の思いや考えを友達や担任に伝える活動を設け、言語のもつよさを感じさせる。
中	基本的な読み書きを正しく行うことはできるが、日常生活で活用する意識に差がある。目的に応じて文章を書いたり、相手の話を聞き取った上で自分の意見を伝えることが難しい。	・自分の考えをもてるようにめあてや発問を工夫する。 ・1時間の授業の中に、協働的に学び合う時間を設ける。話し合う場面では、自分で考える時間を設け、それをもとに友達と話し合い活動ができるようにする。 ・日常的に文章を書く機会を増やし、書くことへの苦手意識や抵抗感を減らす。また、テーマを与え、テーマに対して自分の考えがもてるようにさせる。
高	他人と異なることや正解、不正解にとらわれ過ぎて、自分の考えを表現することに抵抗感をもっている児童もいる。	・多様な意見が出るような話し合いの機会を増やしていく。意見の共通点や相違点を整理させながら話し合いを行わせ、 ・ICT機器を活用し、友達がどのように表現しているのかをその場で確認できるようにして、表現力の向上に生かす。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
身近な素材を基に実生活と結びつけて学び、社会科の知識理解の定着を図る。		
学年	実態	具体的な取組
中	自ら学ぶ資質能力や知識理解の育成が求められる。	資料を活用した授業展開や身近な事柄など実生活に結びつけて学習に取り組む。
高	正しい資料を選ぶこと、また、必要な情報を資料から読み取ることが難しい。	教科書だけでなく、資料集や教師が用意したものなど様々な資料を使い分けながら必要な情報を資料から読み取る学習に取り組む。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
基礎基本的な知識理解などの学力の育成と、自ら考えて問題解決をしたり、話し合いから活動から学び合う能力の育成。		
学年	実態	具体的な取組
低	基礎計算力はある程度ついている。一方で、長さや水のかさ、時刻と時間の単位変換などの学習の定着が低い。	具体物を用いたり、実物に触って単位測量をしたりして感覚を養う。
中	基礎基本的な学力の向上や活用能力の育成が求められる。	具体物を用いて数や形の感覚を養う。自ら考えたり、話し合い活動から問題解決能力の育成に取り組む。
高	基礎基本的な学力の定着が必要。問題に対して多面的に考え、物の見方、考え方を広げていくことが求められる。	朝の学習の時間や宿題を計画的に取り組み、学力の定着を図る。グループで話し合う時には、話し合いのめあてやポイントを児童にしっかり示す。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
体験活動を重視し、問題解決のための実験や観察をすることで児童が主体的に考えることができるようにする。高学年においては、プログラミング教育の実践を計画的に進め、プログラミング的思考能力を育成する。		
学年	実態	具体的な取組
中	実験や観察をすることには高い関心・意欲がある。ただし、問題を把握して正しく結果を記録したり主体的に考察したりすることが難しい。	問題を明確に提示し、結果の記録のしかたを表や図で表すようにしたり、結果と考察の違いを明確にしたりする。考察は、問題に対する答えが基本であるように指導して、考察も基本的に全体で揃えて定着させ、主体性を引き出させる。
高	正しく実験器具を操作できない。(メスシリンダーで正しく容量を量る・顕微鏡の使用順序など) 実験や観察で得た結果からどのようなことが分かるのかが結びつかない。	実験や観察を行うたびに説明するだけでなく、教室や理科室に操作方法などを掲示し、常に目に入るようにする。 実験や観察を行うだけでなく、結果をきちんと出し、そこから分かることを考察し、まとめや振り返りを全体で確認する中で学習の定着を図る。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現する能力の育成。		
学年	実態	具体的な取組
低	生き物や自然に対する関心に児童によって偏りがある。自分が感じたことを相手に伝えることが苦手な児童が多い。	普段から意図的に季節の植物や生き物とふれあう場を設ける。自ら考える場面では、考える視点を明確にして指導し、主体的に自分の言葉で表現するようにする。友達や異学年と気付いたことを交流する機会を設ける。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
音楽や人と関わる中で、「共通事項」をよりどころとして自ら考え、思いや意図をもって、友達と協働しながら音楽表現を楽しむことができる。		
学年	実態	具体的な取組
低	音楽を楽しみながら、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組む児童が多い。	幅広い活動に取り組む中で基礎的な力を身に付け、友達との関わりから表現の発想を広げていくことができるようにする。
中	様々な学習に意欲的に取り組む児童が多いが、協働的に音楽をつくり上げる学習に力を入れる必要がある。	ねらいを明確にすることで、児童がその学習の重点となる共通事項を捉えられるようにする。一人一人が思いや意図をもち、その思いを生かしてグループで表現の仕方を工夫する活動を積み重ねていくようにする。
高	様々な学習に意欲的に取り組む児童が多いが、コロナ禍の影響もあり、表現することに苦手意識をもつ児童も見られる。	表現に必要な技能を楽しみながら身に付けることができるようにする。学習過程における学びが自分で実感できるようなワークシート等を工夫し、音楽をどのように表現したいかという思いや意図を大切にして学習を重ねていくようにする。

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
つくり出す喜びを味わい、造形的なよさや美しさに気付き、創造的に表現し、お互いを認め合える豊かな心		
学年	実態	具体的な取組
低	自分から進んで表現活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうことができる。	学習意欲を活用し、楽しみながらもねらいを明確にし、つくる喜びを味わわせる。
中	楽しみながらも表現活動に創意工夫が見られるようになっている。	様々な材料に出合わせ、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。
高	意欲的に活動はしているが、課題の深め方に個人差が出始めている。	鑑賞作品を多く提示し参考にさせたり、またお互いのよさを認め合ったりしながら、自分らしく表現することをねらいに表現を深めさせる。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
体験活動を重視して児童が主体的に考えることができる学習問題を設定し、自ら考える場面では、自分の言葉で書いてまとめることができる。		
学年	実態	具体的な取組
高	・体験活動が少ない。(調理実習が行えない。) ・自分の言葉でまとめることが難しい児童が多い。	・簡単にできる実習(切り干し大根作りなど)や長期休業日を活用して実習を行う。 ・キーワードを児童に分かりやすく掲示し、そのキーワードから自分の言葉でまとめられるようにする。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
自分やチームの現状を把握し、友達と協働しながら、課題解決に向けて前向きに取り組む力。		
学年	実態	具体的な取組
低	どんな領域の運動でも、前向きに取り組むことができている。	友達の良い動きを伝え合う対話的な活動を取り入れることで、学びを深めるきっかけとしていく。
中	体育の学習に対して楽しいと感じている児童が多いものの、自分に合った目標設定や、自分で考えたり工夫しながら動きの課題を解決しようとする難しさを感じている児童も見受けられる。	グループ学習の機会を取り入れ、取り組むべき課題を明確にして、自他の課題を指摘し、改善策を考える場面を設ける。また、課題に応じた練習方法を選択することを示したりなどする。
高	自分やチームのよさや課題をよく把握している児童と、そうでない児童がおり、課題解決へ向けた姿勢にばらつきがある。	協働的な学習の機会を増やし、よさや課題を共有できるようにするとともに、学習の振り返りを充実させ、課題解決を促せるようにする。

10 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語科等での育成したい資質・能力		
外国の言語や文化について体験的に理解を深め、コミュニケーション能力の基礎を身に付けさせる。		
学年	実態	具体的な取組
低	恥ずかしがらずに、楽しみながら外国語活動に取り組める児童が多い。友達の話を聞いたり、自分の思いや好きなことについて伝えるのは難しい。	ALTとも連携しながら、友達と関わるチャンツやアクティビティを多く用いて、コミュニケーションを図る楽しさを味わえるようにしていく。
中	歌やチャンツ全般は、繰り返し行うことで、楽しいという実感をもって取り組んで児童が多い。コミュニケーションについては、伝えたいという思いはあるものの、表現の仕方に戸惑う児童が多い。	ALTとの連携の中で、アクティビティを増やして楽しみながら単語を覚える。また、他教科との学習内容と関連付けた児童の好奇心に沿った言語活動を設定したり、既知の内容と関連付けて意味を予測できるように、計画的に進めていく。
高	友達とのやり取りの中で聞いたり話したり、また発表でより多く話したりすることに積極的に取り組む児童と、そうでない児童がいる。また、書くことについては個人差が大きく、苦手意識をもつ児童が多い。	やりとりに関して、より積極的に取り組めるよう、構成を工夫する。また、書くことについて十分な時間を確保するとともに、単調な繰り返しの学習にならないよう、何らかの書く目的をもたせたり、ゲーム的要素を取り入れたりするなど、児童の学習意欲を高める工夫をする。

11 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
児童が自らの生活を振り返り、思いやりの心や善悪に対する正しい判断力を身に付けさせる。		
学年	実態	具体的な取組
低	学習ではほとんどの児童が正しい判断ができているが、自らの生活では実践できていないことが多く見られる。	学習の終末で振り返りを行い、学習で考えたことをどのように生活のなかで生かすかを考えさせる。交流活動を通して考えを広げたり実践意欲を高めたりする。
中	教材と自身の生活と結びつけて考えることが難しい。相手に対して心ない言葉で傷つけてしまうことがある。	教材文を自分のこととして考えられるように主発問を工夫する。1時間の中にチームによる協働学習を取り入れ、考えを広めたり深めたりさせる。友達との交流の中で、いろいろな考えがあることを知らせる。
高	頭の中では理解できているが、いざ実践に移すとなると、感情をコントロールできない。また自我も芽生え、新しい価値観とのズレも生じ、戸惑いもある。	グループワーク、ディベートなどの対話的な活動を取り入れながら、多様な考え方があることを実感させ、よりよい解決の仕方を考えさせる。

1.2 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
現代社会の現状や身近な事柄から課題の設定し、ゴール（目的）を意識して課題解決の能力を育成する。		
学年	実態	具体的な取組
中	自ら課題を見つけ、課題解決することが難しい場合がある	課題になり得る例示を出し、選択させるなど学びやすい環境をつくる。
高	課題を設定し、情報を収集することは児童自ら進んで活動できるが、集めた情報の中から、よりよいものを選んだり、よりよいものを考え出すことが難しい。	情報を整理・分析する活動には、様々な方法があることを例示し、自ら選択できる引き出しを増やしていく。

1.3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
学校行事での異学年交流や学級活動などを通して、自分の役割を見付け、主体的・創造的にその役割を果たすことができるようにする。また、自分の将来や人との関わりについて考えられるようにする。		
学年	実態	具体的な取組
低	1、2年生の交流活動を楽しみ、1年生は未来の自分をイメージし、2年生は、自分たちが今までしてもらってきたことを1年生にしてあげようとする姿が多く見られる。自分の役割を意識し、創造的に役割を果たしていくことはまだ難しい。	1、2年生の交流活動を常時行える環境作りや、集会を定期的に行い役割を果たしていく機会をつくる。また、適切に振り返りを行わせ自己の成長を実感できるようにする。
中	学級内や学年での交流を楽しみ、多くは主体的に自分の役割を果たそうとするが、役割が理解できていない児童や、主体的に取り組めない児童もいる。友だちとの関わりも広がってきているため、トラブルが起きることも増えている。	集団活動の中での自分の役割が明確になるよう、めあての掲示や役割カードなどを作成し、個々の役割を明示して振り返りを行う。友だちとの関わりも定期的に確認し、関わり方のよい児童を紹介したり、よい関わり方を知らせたりする。
高	高学年としての自覚をもち、学校をよりよくしていこうと積極的に活動する児童と、そうでない児童がいる。また、多様な意見が出づらく、新しい考えが生まれにくい状況にある。	様々な行事や活動の中で、リーダーを固定せず、様々な児童にリーダーを経験させたり、誰もが安心して意見を出し合ったりできるような仕組み作りに努める。

Ⅰ 4 特別支援学級

目指す児童像を基にした特別支援学級での育成したい資質・能力		
友達と力を合わせ助け合ったり、進んで運動や挨拶をしたり、最後まで諦めずに自分の課題に意欲的に取り組んだりする児童を育成する。		
学年	実態	具体的な取組
低	発達段階の差が大きい。 友達と仲良く過ごせるが、ふざける子に流されてしまう場面も多い。	個別指導計画を作成し、それを基にした指導を行う。生活の場は学年にし、横のつながりを深める。国・算のグループは発達段階に応じて分け、自分に合う課題に取り組める時間を作る。
中	発達段階の差が大きい。 学年間で助け合う姿が少しずつ見られるようになってきた。	個別指導計画を作成し、それを基にした指導を行う。生活の場は学年にし、横のつながりを深める。国・算のグループは発達段階に応じて分け、自分に合う課題に取り組める時間を作る。
高	発達段階の差が大きい。 進んで自分の課題に取り組める児童が多いが、暑さや寒さ、疲れなどで課題への取り組みの姿勢が崩れる児童が数名いる。	個別指導計画を作成し、それを基にした指導を行う。生活の場は学年にし、横のつながりを深める。国・算のグループは発達段階に応じて分け、自分に合う課題に取り組める時間を作る。

Ⅰ 5 特別支援教室

特別支援教室での育成したい資質・能力		
自分の課題について知り、自分から支援を求めたり改善したりする力を高める。自分の得意なことや身に付けた力を発揮し、学級で自信をもって意欲的に活動できる。		
グループ	実態	具体的な取組
低	必要なことに自分から注意を向けることが難しく個別に声をかける必要がある。失敗を恐れ不安に感じやすい児童がいる。	少人数指導の中で、話し手に注目したり周りの状況を見て行動したりする経験を積ませて自信をもたせていく。
中	自分の思いや考えを伝えることが苦手な児童が多い。こだわりが強い児童もいる。	個別学習で自分の思いや考えを引き出すとともに、少人数で運動やスピーチなどの課題にチームティーチングの指導体制で取り組ませ、安心して思いや考えを表出する経験を積ませる。
高	特別支援教室では、自己の課題に向き合い改善への意欲が高い児童も多いが、身に付けた力を通常の学級では発揮しきれない様子が見られる。	在籍学級の担任と連携を図り、身に付けた力を発揮できる場を意図的に設けたり、認める場面を作ったりして、学級での意欲につなげていく。